



## 記念碑

### 中村史子

記念碑は特定の事象について、出来るだけ永く記憶に留めさせるために制作、設置される造形物を意味する。国家事業の周年、個人の功績、厄災など、扱われる記憶の対象は多種多様であるが、その多くが公共的な性質を備え、大勢の人々の目に触れる場所に設置される。

これら記念碑をはじめとする公共作品は近代国家に必須と考えられたため、日本を含むアジア各地に近代的な美術学校が設立されると、意識的に西洋彫刻の教育が行われた。しかしながら日本の彫刻教育史を振り返ると、国家有用の公共物として立体像を設置するという理念と、長らく職人階級の人々によって担われてきた仏像や人形などの立体制作の間には乖離があり、初期には様々な試行錯誤が行われたようだ。

さらに、こうした経緯の末に作られるようになった記念碑も、しばしば変容を被ることがある。為政者による文化政策という側面があるが故に、社会の構造や人々の価値観の変化に伴い撤去、変換される例も少なくない。為政者を記念する彫像の引き倒しは世界各地で見取れる。恒久性を志向する記念碑であるが、物理面、意味の面の双方において必ずしも不変ではないのである。

### 参考文献

- ・ 小田原のどか編・発行『彫刻 SCULPTURE1 空白の時代、戦時の彫刻／この国の彫刻のはじまり』（トポフィル、2018年）